

平成30年度第2回京都市域地域コミュニティ活性化推進審議会

- 1 日 時 平成30年12月5日（水） 午後6時30分～8時10分
- 2 場 所 職員会館かもがわ 大多目的室
- 3 出席者 委員12名（欠席：川口委員，角谷委員，森委員）
事務局（吉田文化市民局長，猪田地域自治推進室長，山村地域コミュニティ・北部山間振興部長，大東地域づくり推進課長，山口市民活動支援課長，他）

4 概要

（1）議題

ア 転入者と地域住民との交流を促進するための連絡調整に関する制度の改正について

■ 事務局から資料3-1～3-5をもとに説明

○ 平田委員

新しく転入してくる方々には，町内会の組織の概要や，輪番で回ってくる組長の役割，町内会費の内訳についても知らせる必要があると思う。また，防災の活動等も知らせていくことも大切である。

○ 大澤委員

昔から住んでいる方は，年間行事や町会費についても良く分かっておられるが，新しく転入される方には，しっかりと説明しなければならない。

○ 越山委員

マンション住民が町会に入っていただくことは，難しいことだと思う。新しい転入者と町会をつなごうとすると相当事業者にコミットしなければならないと思う。

事業者が何をすべきなのかももう少し具体的に示すことが必要なのかもしれない。

○ 谷口委員

確認申請を行う前に，事業者と地域が協議をすることがこの制度のポイントであると思う。

◎ 立木委員

転入して来られる方と地域の交流の促進が目的であることを，もっと前面に明確に押し出す必要がある。

(2) 意見交換

ア 「地域コミュニティサポートセンター」の取組状況について

■事務局から資料4をもとに説明

○ 太田委員

サポートセンターの話を知ると、自治会の活性化は簡単では無いことが分かる。

○ 藤原委員

高齢化が進んで自治会が衰退している中で、誰が中心となって活性化していくのかを考えていかなければならない。また、この情報化の時代の中、町内の情報を発信していくことは重要なことであり、自分も情報発信の担い手でありたい。

○ 山本委員

昔は町内会に入ることは当たり前であった。マンションに住まわれている人の中には、近所付き合いがないのでマンションに住んでいる方もおり、新しい住民を巻き込んでいくことは、簡単ではないと感じている。

ただ、町内が密接で良い雰囲気があると自然と入ってくると思う。

◎ 立木会長

サポートセンターで相談を受けた内容を、いろいろな方法で公開していくことが重要である。事業者にとっても地域情報が知れて役立つと考える。

○ 平田委員

現在、各学区の社会福祉協議会は自治連合会との関係性を大切にしながら活動を行ってきた。今後、さらに社会福祉協議会や自治連合会、自主防災会などが情報を共有して、地域のことを考えていくことが重要であると考えます。

イ 「地域力アップ学区活動連携支援事業」の取組状況について

■事務局から資料5-1～5-3をもとに説明

○ 大澤委員

地域力の向上、学校の魅力の向上のためにも、学校と地域とPTAと連携して取り組んでいる。

○ 中野委員

町内会の高齢化が進んでおり、昔は当たり前に入っていた町内会も、最近は任意であるからということで退会する方も増えている。

◎ 立木会長

福祉や防災，子育て，教育の観点から見ても地域力は重要であり，学区単位で関わる人を増やして，どうしていくかを団体間で共有することが重要である。

○ 谷口委員

町内会は，子どもを大切にすることや，防災においても重要である。地元の町内会で地蔵盆を復活し，加入者が増え，交流が広がった。地域が繋がるには，新しい加入者が広がるきっかけにもなるイベントを効果的に活用することは重要である。

○ 山本委員

地蔵盆は子どもに参加してほしいが，学校の部活動等で参加できない現状もある。

(3) 報告

ア 次期「地域コミュニティ活性化推進計画」の策定に向けて

イ 平成30年度「地域団体とNPO法人の連携促進事業」助成プログラム助成対象事業の募集について

■事務局から資料6，7をもとに説明

○ 内田委員

地域の課題に対して，NPOの専門性を活かして，課題解決に向けて地域と繋がっていきけるのではないかと考える。

(閉会)